

## 紹介

宋代文集索引  
イギリス中世史概説  
崇高について

佐伯 富編

### 宋代文集索引

本書は、中国宋代の有名な士大夫十人が残した文集について、人名・地名・官職名をはじめ、経済・社会・官制・法制・兵制・民族・宗教・文学・美術・思想・掌故などに関するあらゆる語句を抽出し、これを語頭漢字五十音順に排列した索引であり、佐伯富氏が梅原郁・近藤秀樹・竺沙雅章・寺田隆信の諸氏の協力のもとに編したものである。十人の士大夫とその文集は次の通りである。

范仲淹 『范文正公集』  
尹洙 『河南先生文集』  
歐陽脩 『歐陽文忠公全集』  
張方平 『渠全集』

曾鞏 『元豊類稿』

司馬光 『温国文正司馬公文集』

洪适 『盤洲文集』

朱熹 『朱文公文集』

葉適 『水心先生文集』

真德秀 『西山先生真文忠公文集』

これらの諸書は、『四庫全書珍本初集』に収められる『渠全集』のほかは、いずれも『四部叢刊』初編に収められている。

本書のはしがきにもみえているように、宋代史の研究には今や文集の検索は欠かせないものとなっており、時間に限りある研究者にとつて、数多い文集を読破することは至難である。本書の刊行によって、宋代の代表的文集の利用はいよいよ便利になり、中国史を研究する上にまた新たな工具が提供されたと言えよう。

その取められた語数の豊富さに加えて、いまひとつの本書の特長は、当該の語句がその文集のどの論議・墓誌銘・劄子などのせられてあるかを、括弧の中に入れて明示した点である。同じ編者の手になる『宋史職官志索引』においても類似の方法がと

られているが、これによって利用者は、求める語句がいかなる場合に使用されているかをあらかじめ推測でき、この点で史料集に一步近づいた索引でもある。またそれだけに編纂の過程における苦心も察せられるのである。

王安石など著名な士大夫の文集で、本書に扱われていないものもある。(蘇軾のものは、かつて佐伯氏によって『蘇東坡全集索引』として発表された。)また分担した協力者が同じ規準で語句を抽出して完全に統一された形をとる保証はないであろう。しかしこのようなことは、本書の有用性をいささかも損うものではなからう。本書は利用者各自においてことあるごとに価値を見出されるにちがいない。近年宋代のみならず、研究のための工具ともいえるべき索引・目録類の刊行は多い。これらを利用しての基礎的実証的研究の上に立って、歴史像の再構成と総合が待望される。

(A5判八四五頁 昭和四五年三月 東洋史研究会刊 定価四、〇〇〇円)

(植松 正)